

研修報告書

三原市立第一中学校

村上 直子

1. はじめに

私は7月23日（火）から8月12日（月）まで、ハワイのカピオラニコミュニティカレッジ（KCC）での広島県英語担当教員語学研修に参加した。この研修では、今までの自分の英語力に加えて英語指導力を向上させること、自分の指導法について改めて見直し、改善させること、ハワイの文化に触れることなどを目標としていた。私自身は海外研修が初めてであり、しかも英語で教授法などの講義を受けることに対し、期待とそれを上回る不安を持ちながら出発を迎えた。研修を終えて今思うことは、実践に取り入れてみたい英語教授法を集中して勉強でき、教科としてのみならず、言語としての英語に、じっくり向き合える良い期間になったということである。短期間で学んだ多くのことを整理しながら振り返ってみたい。

2. KCCについて

KCCは、ダイヤモンドヘッドの麓の、自然に恵まれた美しい環境の中にある。朝、ホテルからKCC行きのバスに乗り、バス停からキャンパス内の同じ道を通り、カリアヒという名の校舎内で一日を過ごす。そんな毎日の中で、キャンパス内にある自然やそこから見える風景は、私にとっては気分転換や癒しになった。講義やレポート作成が続く中、休憩中は外に出て自然を見ることを楽しんだ。天気の良い日は海岸の景色がダイヤモンドヘッドをバックにはっきりと見え、キャンパス内の芝生では、さまざまな鳥やリスなども見ることができた。このような自然環境の中で学べる学生は幸せであり、三週間、私もその一人となれた。KCCは、海外からの多くの生徒が在籍しており、英語をはじめ、芸術学部やホスピタリティを学ぶユニークな学科もあった。研修期間中は夏休みを利用して語学留学している日本人学生もたくさん見受けられた。

3. 研修について

3. 1 研修内容

3週間からなる本研修の目的は、以下の3点である。

- (1) 英語力を伸ばす機会
- (2) SLS（第二外国語研究）の教授法についての概要と内容中心のカリキュラムモデル使用も含めた英語指導に関しての様々な方法を経験させる機会の提供
- (3) ESOL（第二言語として話す人のための英語）とEFL（外国語としての英語）に関する問題を模索し、議論、研究する機会の提供

その目的を達成するために、以下のような課題に取り組んだ。

- ・ ESOLやEFLの指導に関する資料を読んで理解し、話し合うこと。
- ・ 生徒たちの会話力を伸ばすために、生徒相互のやりとりを促す方法を理解し、実践すること。
- ・ 書く指導に関しての段階的な指導法を理解して体験すること。

- ・ 多読と精読，および目的意識をもたせた読みの概念を理解すること。
- ・ CBI（内容中心の指導法）を用いながら，聞く，話すことの指導を理解すること。
- ・ 自身の英語授業の指導案を企画，発表すること。
- ・ 個人の教育哲学のレポートを作成すること。
- ・ 探究，調査，研究および議論すべき言語習得と言語指導の困難点を明らかにすること。
- ・ 英語指導の最近の傾向と課題に関わる研究小論文を仕上げ，パワーポイントを使用しての口頭による研究発表を行うこと。

後半3つの「教育哲学のレポート」，「研究小論文の作成」および「パワーポイントを使用した口頭による研究発表」を大きな最終課題と設定し，それを達成すべく，各課題に取り組んでいった。このプログラムは，いわば一つの大きな単元であった。時には読むことに，時には話すことに特化した授業になっており，それぞれテーマがあった。そして今日行った授業の内容は，明日の内容に関連しているといった，つながりのある流れになるように，随所に工夫がなされていた。最終的には，学んだことを書いてまとめる，そしてそのことを話して発表するというプレゼンテーションスタイルだった。この研修は，「聞く」，「話す」，「読む」，「書く」ことの4技能が効果的に統合されたプログラムであった。

3. 2 教育哲学

提出課題の一つに，Teacher's Philosophy というのがあった。「なぜ，教えるのか」「自分がなりうる最高の先生であるか」「教師として，毎日すべき最も重要なことは何か」など，自己の意識や教師であることについて，テーマをひとつにしぼって書くというものがあった。私は，「生徒に対して自分はどのようなすべきことがあるのか」ということや「生徒に何をどのように学んでほしいのか」について書いた。仕事に対する意識や教師としての自覚を促し，自分の信ずる中核のものを書きだすことを通して，自分自身の今までの経験や考えをまとめ，整理する良い機会となった。

3. 3 研究レポート

本研修で学んだことをもとに，私は「精読と多読に焦点をあてた読解指導の改善点」を研究テーマとして設定した。生徒たちは，普段「読むこと」に苦手意識を感じる事が多く，特に長文には苦手意識や抵抗感が強い。苦手意識を感じさせている一つとしては，私自身の現在の読むことについての指導が，精読させることに焦点をあてすぎてしまっているから，というまとめになった。教科書の長文指導でも，語彙や表現をしっかり理解させてから意味を把握させようとする傾向が強く，内容に関するメッセージ性や，内容に対してどのように意見をもたせるかなどの発問，ワークシート作成に改善があることがわかった。さらに多読に対しての理解や方法をいくつか学ぶことができ，取り入れてみたい手法を得ることができた。読むことの指導に広がりがあったと思う。リテラシー能力を生徒にもしっかりと身に付けさせるために，今回学習したことを今後の授業改善に生かしていきたい。

3. 4 プレゼンテーション

本研究の総まとめとして，研究レポートをもとに，パワーポイントを使ってプレゼン発表をした。

発表自体は40分あり、その中で調べたことをすべて英語で伝えなければならないという作業は、準備や練習ともかなり時間がかかった。今回与えられた時間で、そして母語でない言語で伝えるということは初めての体験だったので、資料を作るのにずいぶん困難なこともあったが、Malm先生の徹底的な励ましやアドバイスで仕上げることができた。

当日は、Malm先生をはじめ、言語学専攻の先生方、KCCのスタッフの方たち、教育委員会からも2名見に来てくださった。プレッシャーを感じながらも、第一中学校の説明、学んだこと、これから生かしたいことなど伝えることができた。お忙しい中、先生方は熱心に聞いてくださり、プレゼンの後は読むことの指導に関するアドバイスをくださったことに対して感謝の思いでいっぱいである。

3. 5 DOE 訪問

ハワイ州の教育委員会（DOE）を訪問することがあった。ハワイの教育事情についての説明を3名の教育委員会の方々が対応してくれた。日本とは違う教育システムについて知ることができた。

例えば、不登校の生徒に対しては、学校長の許可が下りればインターネット使用による家庭学習が可能である（卒業証明書はもらえないこともある）。ハワイ語で学習したり、ハワイの歴史や文化を多く学んだりするチャータースクールという学校もいくつか設置されている。日本では見られない取り組みもあり、それもメリットとデメリットがあるが、外国の教育事情を直接関係者から聞くことのできた機会は有意義なものであった。目下、ハワイは子どもたちの学力向上を目指して、教育改革を行っているところである。今年度は3年目であり、授業の資質向上に向けて取り組んでいる。州統一の評価規準に基づいたルーブリックを示し、それを基にした教育委員会や学校長の授業評価などを行っている。いろいろ課題はあるものの、取り組みの成果も現れているようだ。

ハワイはプランテーションの歴史からもわかるように、さまざまな国からの移民から成り立っている。それゆえ、言語をはじめ文化や宗教も多様である。その中で同じような教育を行おうとしてもさまざまな場面で問題が起きる。特に言葉の壁は大きい。しかし、これからのグローバル社会では、現段階でハワイが抱える問題は、近い将来日本や他国でも起こりうる問題である。そうであるならば、ハワイで行われている様々な国や文化背景をもつ生徒たちを対象に行われている教育に対して、我々は学ぶ必要があるのではないかと思う。

3. 5 校外学習

ハワイの文化と歴史の一層の理解のために、校外学習プログラムも一日用意されていた。午前中は、プランテーションビレッジに行った。ハワイは昔、プランテーションが行われており、日本をはじめ、韓国、フィリピン、ポルトガルなどから多くの人々が仕事を求めハワイの地へ移住した。昔の地を再現した場所で、自身も小さな頃はプランテーション地区で育った Espy という女性のガイドのもと、当時の暮らしや仕事に対しての話をうかがった。ガイドの最後には、いろいろな国の手料理もふるまってくれた。彼女の心温まるもてなしを受けながら、ハワイの歴史について考えさせられるひと時であった。

午後は、パールハーバーにあるミズーリ戦艦での見学であった。パールハーバーから始まる大戦の歴史について勉強できる良い機会だと思ったので、いろいろなことをしっかりと見聞きしておこうと

思った。そこではリエさんという日本人のガイドに案内された。当時、撃墜されて沈んだ戦艦からはいまだに原油が少しずつ流れていることや、ポツダム宣言受諾後の調印式のエピソードなどについて、実際の場で知ることができた。日本人の見学者が多いので、日本人向けの案内はいつも対応できることであった。日本とハワイに関連した2つの歴史について勉強できた。

4. おわりに

本研修での3週間は、毎日が課題の連続であり、大学から帰っても復習や予習をしなければならず、自分にとっては困難な日々が続いた。今はすべてのプログラムを終えることができ、安堵感と達成感でいっぱいである。私が無事に研修を終えられたのは、同行させていただいた2名の高校の先生と、Malm教授のおかげである。2名の先生方とは毎日学校に通い、講座を受ける中でずいぶんと助けていただいた。高校の現状や授業のこともいろいろ聞くことができたし、中学校で身に付けさせておかなければならないことも感じることもできた。Malm教授はお父様が和楽器奏者で、自身も日本に滞在されていたことから日本文化について精通しておられ、日本での英語教育にも理解を示してくださった。教授はどんな質問にも丁寧に答えてくださり、私の初歩的な疑問や意見にも真摯に耳を傾けてくださった。レポート作りでは、私の意見を尊重しつつ、議論をする中でまとめる方向性を導き出してくださり、それを最適な表現などに再編していただいた。書き言葉に対する語彙や表現力も身に付けていただいたと思う。Malm教授は私の最良のロールモデルであった。一緒に話したり、板書やレポートの表現を見ながらそれをまねたりすることで、私自身の英語力を伸ばしていただいたと思う。いつも前向きに励まし続けていただいた教授のおかげでこの研修を終えることができた。さらに最終日にはハワイの遺跡めぐりやビーチ、地元のギターコンサートにも連れて行ってくださり、貴重な思い出となった。このような素晴らしい先生に出会い、教えていただいたことは、大変光栄であり、感謝している。

最後に、このような有意義な機会を与えてくださった広島県教育委員会をはじめ、関係各機関の方々や、KCCの教授陣やスタッフ、コーディネーターの方々など、お世話になった方々すべてに心から感謝いたします。